

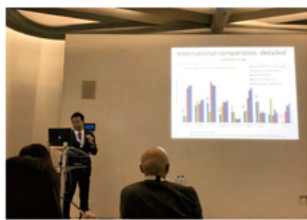
第39回国際がん登録協議会(IACR)参加報告

齋藤 英子

国立がん研究センター がん対策情報センター がん統計・総合解析研究部



2017年10月17日から19日にかけてオランダ・ユトレヒトで開催された第39回国際がん登録協議会(IACR)に参加しましたので、概要についてご報告いたします。この学会は、IACR(International Association of Cancer Registry)が毎年開催し、第39回目となる今年はベルギーおよびオランダのがん登録協議会による共同開催となり、延べ220人が参加し、発表数は243題のイベントとなりました。日本からは18名が参加し、5名の口演発表、11件のポスター発表を行いました。今回の協議会では、国立がん研究センターの松田智大先生が国際がん登録協議会理事長に正式に就任され、就任後初めてのスピーチを行った他、数々のセッションでもジョークを交えた座長ぶりでご活躍されました。



学会発表の様子

本稿では、全体講演の中から一つ印象に残ったセッションについてご紹介します。基調講演の一つを務められたJohan Mackenbach教授(オランダ・エラスムス大学医療センター)の

からは、近年ヨーロッパにおいて、社会経済格差が循環器疾患死亡に代わりがん死亡で顕著に見られるという報告がありました。がん死亡における社会経済格差は、東欧諸国もさることながら、ノルウェーやデンマークといった社会福祉が充実しているとされる国々でも拡大していると述べ、福祉国家のイメージとの違いに驚かざるを得ませんでした。この理由として、高所得国では教育水準の高い階層が医療への投資により便益を得る一方、相対的貧困層は貧困と喫煙に起因する健康格差が広がっている点を挙げ、今後のがん対策は、がん罹患と生存における格差是正が重要であると結びました。



IACR Social Dinner
会場である
De Winkel van Sinkel

本稿では一部のセッションについて取り上げましたが、他の話題も含めてさらに詳細を知りたい方は、IACR 2017のホームページをご覧ください(<http://www.iacr2017.org/index.html>)。学会プログラムや抄録集が公開されています。

特定非営利活動法人 日本がん登録協議会

JACR事務局だより

特定非営利活動法人 日本がん登録協議会事務局

濱松 若葉 松崎 良美

事務局職員紹介

事務局には2名のスタッフが新しく着任いたしました。この場をお借りして、事務局スタッフの紹介をさせていただきます。



常勤職員 濱松 若葉(はままつ わかば)

写真右側

皆様、初めまして。濱松若葉と申します。

この度、JACRの事務局に常勤の職員として就任いたしました。私の生まれは静岡県静岡市ですが、名字は濱松。奇しくも静岡市の永遠のライバル、浜松市と同じ響きを持った名字となっており、生まれ故郷ではいささか厄介な名字でもあります。

不思議なご縁で、猿木理事長は高校の大先輩です。一人の後輩として、一人の事務局職員として、猿木理事長率いるJACRの活動を陰ながら支えていければと存じます。

非常勤職員 松崎 良美(まつざき よしみ)

写真左側

初めまして。松崎良美と申します。2017年10月の日本公衆衛生学会の自由集会以降、事務局スタッフとしてお世話になっております。大学に所属し、障害のある学生の修学支援や健康(特にメンタルヘルス)をテーマとした研究をつづけておりますので、非常勤という形式にはなりますが、JACRを盛り上げていけるよう努めていきたいと考えております。至らないところも多々あるかと存じますが、どうぞよろしくお願いたします!